

私 の 体 験 談

幸建設社長 幸 康生

1. 木材屋の昔と現在

私の若い頃は、木材屋へ行きますと柱や小割材などが、押角、一等、上小節、無節という具合に順序よく店頭を立てられていました。置き場も売れる木材は出入り口近くにあって、素人でも簡単に選木できるようになっていました。

また、造作材については、敷居や鴨居などの部材は多少薄暗い奥の方に立て掛けてあり、木材乾燥への配慮がなされていたようです。ところが、現在の木材屋さんはどうでしょう。柱等が立てられているところはほとんどみかけません。また、あったとしてもわずかの役物に限られています。大半の木材さんは、柱や桁材など梱包したまま横積みしており、乾燥に対しての配慮がみられません。

やはり、木材を消費者に供給する場合、乾燥材を提供することが大切ではないでしょうか。乾燥材を使用すれば、施工後のトラブルがおきませんし、家も丈夫になります。

2. 別府地区と杵築地区における木材消費の比較

私が調査したところでは、別府に供給される木材の大半は外材で占められており、国産材の利用は極めて少ないようです。外材は価格のバラツキがなく、しかも見かけがよいため、大工・工務店ではかなり使用しているようです。

一方、杵築地区では、古くから国産材が定着しており、たとえ節があっても建築では国産材を主体に使用しているようです。こうしたことから、大工・工務店の意識が大きく左右しているものと考えます。

3. 私の材木感

私達、建築関係者が木材を利用するとき、まず感じるのは、乾燥された木材が非常に少ないことです。なぜこうした状況になったかを考えますと、全体的に

木材に対して愛情がないと思います。山林を買えば、すぐに伐採して市場に出しています。昔は木挽きが山に入り、大きな鋸で一本一本倒す方向を見ながら伐採し、上葉を残して葉枯らしを行ない、ある程度乾燥させたのち製材工場や原木市場に出荷したものでした。

今、私の会社が建てているお寺の場合、契約と同時に化粧材、柱、桁等を購入し、6～8ヶ月間、風通しのよい所で陰干しをいたしました。乾燥期間中は、野物（小屋組、床、足固等）の切り組みをします。前にも述べたように、最近乾燥材が少ないため、私達が乾燥材をつくらないと100年も200年も維持できる建物はできません。

また、現在流通している国産材は強度が弱いと思います。私は、使用する外材はすべて強度試験を行っています。一般に外材は弱いと言われていますが、圧縮強度をみると600kg/cm²のものもあります。鉄筋コンクリートは180kg/cm²ぐらいです。一般の人は、鉄筋コンクリートの建物の場合、永久的に強いと思っておりますが、鉄筋コンクリートは自重を支えるのに2.4倍の力が必要ですが、外材は約0.8倍です。

また、先程述べました国産材の強度が弱いのではないかと言うことですが、戦後の造林地は、施肥等によって林木の生長は非常によくなっているものの、山の手入れは不足しているのではないのでしょうか。木目は粗く、節が多いようです。このため強度が弱いのではないかと思うのです。以前私が行ったスギ、ヒノキの強度試験では、圧縮強度が600～800kg/cm²、曲げ強度が700～900kg/cm²という結果を得たことがあります。今後、最近のスギ、ヒノキについても試験してみたいと考えております。

以上述べましたが、林業、林産業関係者はもっと木材の品質向上に努めていただきたいとおもいます。そうすることによって、国産材の使用ももっと増えるとともに、木造住宅の良さがもっと普及できるものと考えます。